

東北の魅力を掘り起こし、広く発信。 旅の満足を追求する「動く専門旅行会社」

YaH 株式会社

山形県酒田市新橋 2 丁目 26-20 LIGHTHOUSE

URL：動く専門旅行会社 yah.jp

山形県の庄内地域と秋田県の本荘・由利地域を拠点に、「動く専門旅行会社」として旅行業・ガイド業を手掛ける『YaH』。島貫社長は地域の既知・未知の資源にスポットを当て、様々な魅力を広く発信すべく尽力している。タレントのつまみ枝豆氏が社長に様々なお話を伺った。



interviewer
つまみ枝豆



代表取締役
島貫 陽



——早速ですが、島貫社長が事業を手掛けられるまでの歩みから伺います。

宮城県で生まれ、埼玉県で育ちました。幼少期から自然に触れる機会が多く、雑木林や川などで昆虫採集をすることが好きな子どもでもしたね。そのころのことは今でも鮮明に覚えていて、現在手掛けている事業のベースとなっている気がします。大学進学を機に宮城県に戻り、工業大学で空間デザイン及びデザインの基礎を専攻しました。「雑木林」を専門分野とし、雑木林の文化を研究テーマにしていたんですよ。

——卒業後はどのような道に？

香川県高松市の NPO 法人に就職し、竹林や雑木林の整備作業やビジターセンターの管理運営、ボランティアコーディネートといった業務に携わりました。その中で自然の魅力を広く発信する仕事がしたいという気持ちが芽生え、埼玉県のビジターセンターなどでインタープリター（自然解説員）として勤務するように。一方では、自然教育やイベントの企画を担当することもありました。その後、雑木林の保全管理に伴い発生する木材の有効活用を図るための事業立ち上げを考えるようになったんです。それで建具職人として、家具や建具の製作・現場取り付け作業に従事しました。けれども怪我

により断念。そんな時、山形県遊佐町の地域おこし協力隊の求人募集を見つけました。かつてテレビ番組を通じて見た遊佐町を流れる牛渡川の美しさが印象に残っており、「これだ」と思いましたね。

——それが山形に移られたきっかけだったと。どのような業務に携わられて？

「日本海と大地がつくる水と命の循環」をテーマに、山形県と秋田県の自治体が連携して進めていた「鳥海山・飛鳥ジオパーク構想」の推進業務に携わりました。その一環でジオパークのガイド養成講座を受講する機会がありまして。同期の仲間から、「庄内エリアの魅力を発信できる観光資源は鳥海山ぐらいしかない」と言われたんです。けれども、私はそれ以外にも魅力はあると思うんです。美しい風景の上に暮らす様々な生き物、人の暮らしと営みによって蓄積されていく歴史、伝統、文化——。鳥海山以外にも、核となるネームバリューのある場所・ものをつくっていききたい。そう考え、地域の既知・未知の資源に光を当てる“動く専門旅行会社”を目指して『YaH』を設立しました。現在、山形県の庄内地域と秋田県の本荘・由利地域を拠点として、旅行業・ガイド業を手掛けています。

——特色あるガイドツアーを企画されていると伺いました。

旅の移動に「満足」をつくることをモットーとして、庄内地方を自転車でゆっくり走りながら、広大な里山の風景を眺め、気持ちの良い風を感じることが出来る奥羽里山サイクリングガイドツアーを開催しています。自然や地形、地域の暮らしなどについてお話すガイド付きのツアーアクティビティです。他にも、様々なニーズに対応するガイドトレッキングも実施。今後は増加するインバウンド需要にも応え、これまで培ったノウハウを活かしてガイド人材の育成にも尽力し、事業規模拡大を見据えています。

(2019年5月取材)



「環境教育の一環として、特製の箱メガネを使った、川での体験アクティビティの実施を計画されているそうです。その他にも様々なイベントを企画されているとのことで、島貫社長の今後のご活躍が楽しみです！」 つまみ枝豆・談